

まったく何なのよ…
屋敷中に漂う
この甘い匂いは

月もまだ昇りはじめた
ばかりだというのに

全然寝足りないわ…

咲夜がまた新しい食材でも
見つけてきたのかしら

おかげでやたらと
のどが渇くじゃない…

あの馬鹿メイド…
お仕置きしてやろうかしら



喉が…
喉が痛い…

渴きすぎて
やばいわね

ほんとに…
何なのかしらね

今までにこんな
のどが渇いたことなんて
あったかしら…



ああ…

お腹も減りすぎたのか
なんだか疼いてきたわ

はま

まったく…
まったく…

少しくらい味見しても
いいわよね
咲夜が悪いんだから…

いえ…

気絶してる人間から
血を吸うなんて
はしたないことできないわね

こんなところに
食料を放置しておくなんて

すごくいい匂いね…
近づくにきたら
疼きがひどくなったわ

身体が熱い…
頭がポーンとしてくる

汗でベトベト…
気持ち悪いわ

でも
舐めるくらいなら…

何もしてないと
気が狂ってしまいそうだし…ね

美味しいわ…
舐めてるだけなのに
ソクソクききやう

目を覚ましたら
敗々に脅えさせて
じっくりと味わいましょう



きょっ!?

ぐんぐん

おっきい! それにすごい匂い とても美味しそう...



お腹がすいたってよりも なんだか違う...

この匂いを嗅いでいると お腹の奥が疼いてくるわ

このへんかしら... 何かビクンビクンしてるわ

布の間から 匂いももれてる感じ? 開けてみようかしら...

おなかで

おなかで



あら 起きたのかしら?

なんで? どうして!?

おい人間 白いのっ 白いのをもっと 出さない

おまの おまの

白いのって... 精液? こんな可愛い子が 俺の精液を?

はやく出さない!!

私が命令してるというのに



この液体が 匂いの元なのかしら

舐めてみよう...



なっ なにこれ!? 美味しい!



もっと味わいたいわ

吸えば... 出てこないかしら

おまの

幼女が... おっ俺のツ?

幼女? なっなんだ? 幼女が... おっ俺のツ?

ちゅちゅ

おまの

うっ!?



とろい人間ね... 殺してから いたたこうかしら...

あー、まだ夢の中か

聞いているの? 早く出さないよ

それは... いただいちゃって いいってことですか!?

夢サイコー!! 今日俺グッジョブ!!

いただきますっ!!

出してくれるなら 何でもいいわ 早くしなさい

なっ何をっ!?

お〇んちんをしごく
さっき飲しがってた
お汁がたくさん出るんだけどな！
裸にされたのに
身体が熱い…
すごく…欲しい

はあ

はあ

んあ

特に…
ぐりぐりされていると
すごく身体が熱く…
欲しくてたまらない
アレが飲めるなら…

でも
いっ 入れるって…
こんなの…入るの？

あ

さっきみたいに口とか…
手じゃだめなの？

ぐちぐちぐち
なってるココじゃないと
ダメなんだよね

いっばい…飲めるなら

ん

ぐちぐち

ぐちぐち

あの美味しいのが
いっばい…
いっばい飲めるの…？

いっばい
濃いのが…いっばい！

はあ

はあ

君もこんなによだれを
たらしちゃって
準備万端じゃないか！

あ

はあ

いいかもしれな
ちよっとくらい
我慢してあげても…

飲めるなら…
飲めるなら…

ん

入れてもいいよね？

ん

ちゅく

ちゅく

…仕方ないわね
さっさとだしなさいよね

さっさとすませて
解体して食べてしまおう

よっしゃ
入れちゃうよ

こんな奥深くまで
入っちゃったよ！

やめえ…

ささけっ 裂けるっ
おなか…いっばいすぎて
苦しい…

お〇んちんと
指でお腹挟まれているの
わかるでしょ？

入った…入ったけど
何なのよ、これ

おひゃあひゃあひゃあ
やめおひゃあひゃあ

呂律がまわらない…
痛いつてよりも
なんだか…不思議な



まだ…なの？

だまされた…の？
人間ごときに
この私が…

いっ
入れれば出るって
いってたじゃない

動いてお○んちんを
しこかないとでないだ

くるしいのっ
なんでもいいから
早くして…っ

はい
じゃあ動くね

いきなり速くだなんて
激しいのが好きなんだね♪

まったくグズな人間ね…
早く済ませて…

!?

なっ身体の奥にっ

かっ
かたいのがぶつかってくりゆうっ

とまって！
らめえ…っ
頭の中
火花散っちゃってるっ

肉棒と擦れる肉が
快感の悲鳴を上げてくる

私の中を目一杯こじ開けてるモノが
ビクビク暴れながら私をかき混ぜてくる

無理
止まらないよっ
とりあえず
一発目出しちゃうぞっ！

やばいわ…コレ
頭が 何も
考えられなくなっ…る

あああああああ

ああああ

!!!

何かがっ
奥にぶつかってくる
染み込んでくる…っ!?



これさっきの
美味しい汁?

せっかく我慢してたのに
もったいない……っ

飲みたかったのに
身体の中に直接
流し込まれてるの??

もう一回出させないと
いけないわね

くっ とまんねっ

なっ何これ
いつまで出てるのよ!?

もう
はっ 入らない……っ



爆ぜちゃう!
もう入らないわっ

ああああああああああ

なんだか
口から飲むよりも
美味しく感じてる

お腹パンパンで
痛いくらいなのに
身体が喜んでる……わ
なんなの……これ

ちょっと怖いわ……

出したはっかりなのに
まだギンギンだ(笑)
もう一発いこうかー

!?



抜かずにガンガン
いっちゃうぞー

って、やばい
また出そう
早すぎるけど
よすぎて我慢出来ない……

なっ中
もう……はいら
わ……



中がダメなら外だー!!

まだち○こ立ちっぱだ
さすが夢の中だ
出しまくるぞー!!



やっぱり中に出したほうが
気持ちいいわー

勝手なこと言っ……



こいつ馬鹿じゃないの
さっきから入りきれなくて
あふれてるのに

もう……ダメ
はいら……わ

でも、君の身体は
中に出す度にキュンキュンして
気持ちいいって言ってるよ

もう
中に出すのやめ
……なさい

頭がおかしく
なりそうだわ

まだまだイけるからね
もっともっと
気持ちよくなっ……

ひっ
まだ出るの……??



何かしゃべるのが
億劫になってきたわ……

何を言っても
聞いてくれないし

だから……っ
もう入らないって

液体が肉の合間を
無理やり擦っていく
この感じ

気持ちよすぎるのよ

頭の中が
ずっど真っ白になって
身体と心が震えて

何も考えられなく
なってしまうわ

まあいいわ……
気持ちいいし
今日のところは
このまま
流されてあげるわ

うん、すごく
美味しいわ
……さすがに
この量はどうかと思っ……

やだ……お下品だったかしら



味見して…

いえ…



…吸血鬼の城で
その主の前なのに

なんて間抜けな顔で
幸せそうに寝ているのかしら…

ヌヌヌヌ…



気を失ってる間も
散々弄んでくれたようね…

そろそろ
血をいただごうかしら…

フッ
フッ



久々の人の体温

鼓動の音

たまにはこんなのも…
悪くないわね

なんだか気分よく寝られそう

明日は何をして楽しもうかしら



食べるのはよしておきましょう
もっと美味しそうな時に

散々におびえさせて
恐怖の絶頂に…

やだわ
お腹一杯なのに
ちよっとお腹すいてきたかも…

ここは…私の部屋？
咲夜が運んでくれたのかしら

昨日みたく
激しくはないけれど
やっぱり身体をいじられてる

でも
昨日の激しいのも
捨て難いかしら

おっ反応が変わった…？
起きたんだね

あのメイドが屋敷に転がってるものに
気がつかないわけがないものね

じっくりされるのも
気持ちいいわね

そっ そんなこと
ないわよ

なんだか
物足りなさそうな
顔してるねー

ここもかもって
激しくして欲しいって
ヒクヒクしてるよ？

そんなことないわ

……
やっぱり食べておいたほうが
よかったのかしら

またイっちゃう!?!
やっぱり話聞かないのね

おー
すごい勢いだ

今度はまた一緒に
気持ちよくなるうか

またされてしまうの？

やっ
やめなさ……っ

いれるよっ

お腹パンパンに……
壊れちゃうわよっ!?!

ご期待にお答えして……

ひゃっ!?

だめっ
グリグリだめえ……っ



もう食べられちゃってるよ笑
もっとお腹いっぱいになりたいなんて
欲張りなんだなあ

あめ

あ

痛いくらいの締め付けも
アレはアレでよかったけどね

好き勝手言って…
あとで食べてやるんだから
覚えてなさい

ん

あ

は

ん

ん

ん



くっ
やっぱりすごい
締め付けた…っ

あ

ギュー
ギュー

ギュー
ギュー

でも
昨日だいぶほぐしたせいか
締め付けが調度よく
なってるよっ



八重歯詰められて
おま○こきりんきりん
しちゃってるよ

今日もお腹いっぱい
してあげるからねっ

だっだめっ!



あああ

具合がよすぎて
我慢しても
すぐイっちゃういそ
うだっど…ねっ

そん…なっ
深く突くなあ

ご要望にお答えするために
がんばっちゃうぞー

ん



「にり〜にりもやぁ〜
らめなのっ！」

「じゃあ
これはどうだっ」

「つきながら
いじむのだめっ」

「おかしくなっちゃう！
乳首ひっぱらないで」



「出さう！
出すよっ
お腹一杯になれっ」



「待ってっ〜っ〜っ〜じゃない〜！」

「話を聞かないと、ソレ
干切るわよっ！」

「ひっっ」

「ちょっと外出るわけ」

「帰ってきたら…
また好きなだけしてもいいから」



「よしっ今回もなえる気がない
もう一回しようかな」

「ちょっと待ちなさいっ」

「イヤ〜、さすが夢の中
絶倫すぎる」

「ギョッギョッ」

「ドォー」

あなた幻想郷の
人間じゃないわね

げっ ゲンソウキョウ？

ここは幻想郷
忘れられたものが流れ着く
妖怪と人間が暮らす秘境の地よ

うわああ！

もっとしっかり
つかんでくれー！！

やっぱり夢だ！
そうだ
だからたぶん
落ちても大丈夫なんだ！
HAHAHA

あなたは次元の隙間に
落っこちてこちらの
世界に迷い込んだのね

ひっ！？

すっ
うきで置いてあげるわ

あぶわっ

私の名前は
「アリス」だよ



ばっ馬鹿!
飛んでいる最中に
あばれるなっ!

食料でも横わないさ
食べられるその日まで
目一杯気持ちよくして
あげるからねっ

なっ!? むっ胸をぐりぐりするなっ!

へっ 変なとこ触るなっ!
落とすぞ!?

大丈夫ッ
もうレミへの
恋に落ちてるから

!?



落ちろッ
この食料!

やめてっ
この高さは
死んじゃうよ
死ねっ 馬鹿者ッ

マジで……うわああああああああ



ギョッ

いい加減に目を覚ましなさい!

痛てててっ!?

ゆっ夢じゃ……ない!?

幼女にあんなことや
こんなことをして……
捕まるじゃないかっ

……
普通は元の世界に
帰れるかどうかを心配する
もんじゃないの?

安心しなさい
ここでは力の強いものが正義
人里ならいざ知らず
紅魔館にいる限りは
問題ないわ



じゃあ俺のことは

あんたなんて非常食で十分だわ

いっしょっ

いっかミンチにして
食べてやるんだからねっ

確かに

フィギュア

確かに
好きだけさせてあげる
って言ったわ

そっ
そんなことない……わっ

レミイって羽の付け根
が敏感だよ

お〇んこいじってるとき
よりも身体がビクビクしてるよ



私も……嫌いじゃないし
むしろ好きかも……しれないわ

お尻の穴もいじると
すごい締め付けてくるし

感じないところが
無いみたいだ

馬鹿ッ
そんなこといじらないでよっ

だからこーゆーことをするのよ
やぶさかではないけれど

えーでも
すごい感じてるよ



普通に敏感なところも
もつと感度がいい気がするよ

私ばかり弱点を
みつけられて
不公平な気がするわ

そこはっ
だめっ
らめええええ

レミイ
すごいよっ

すごい飛んじゃってるっ

ぐりぐりしないでえっ
気持ちよすぎちやうのお……っ

一度反応するとしつこく
いじられて

身体が言うことを
聞かなくなって

お願いっ
止めて……っ
うー



なすすべもなく
イカされて

耳なんてなめないですよ
ちゅばちゅば耳元で
なってる

頭の中犯されてるみたいだわっ
やめて欲しかったら
あーんして
ペロちゅーしよっか

身体に力が入らないところで
また全身を探られる

レミイの
唾液美味しいよー

休む間もなく

ふざけたこと……
言わないで

悪態出す……わん



よし まだびんびんだぜツ
ガンガンいっちゃうよー

だあああーツ！

あなたほんとに
人間ののっ？

ここ数日の間
ベッドの上から降りた
記憶がないわよっ？

記憶が飛ぶほど
気持ちよかったんだー

死になさいっ！

レミイは足も敏感だよー



私でもこう毎日激しくされてたら
身体が持たないわよっ

とうぶんお預けよ！
いいわね？
私が許すまでダメよっ!?

じゃあ最後に一回だけ…っ

死んでしまいなさいっ！



あれから数日

ゆったりとした
安らぎの時間

ほんと久しぶりに
満喫できてる…

んー
いい香りだわ

と、思ってたのに…

なに硬くしてるのよ
もう我慢できないの？

いや
そこまでは…

レミイさん…
おこってるンデスカ？

ヤバイです
そんなにぶるぶる
しないでクグサイ

あいつはなんだかんだで
我慢できてるのに…

私のほうが我慢でき
ない…なんて



うー…
私ばかりやきもち
してるだなんて
不公平だわ…

どうしてもって
懇願してきたら
させてあげてもいいかなー
って思ってたのに…

良い様ね

こんな妖気も感じさせないような
低級妖魔に良いようにされているなんて

これに懲りたら
変な食材を集めて
私に食べさせるのを
止めなさい

答えられないほど
溺れているのかしら

なにかしら…
咲夜の声みたいだけど
…変な声ね

!?

ちょうど良いわね
こいつを八つ裂きにして
気を晴らそうかしら

御しきれないなら
私が手伝ってあげようか?

あのメイドもたまには
役に立つじゃない

おっ
おやめくた…さい
お嬢様

もう少し出せば
元の姿に戻ると思い
ます…ので…

もう少し…?
趣味なのかしら

ストレスでもためていたのかしら
こんな低級妖魔に
身体をゆだねるだなんて
よっぽど…

これを殺すのは
おやめくた…さい…っ
ひっ

私も人のこと言えないわね…
食料としちゃってるし

それにしても
いつまで続くのかしら？
あの食料みただわ

なんだか
いらいらしてるわね
私がお慢してるといふのに



さっき咲夜が言った
元の姿ってなんのことかしら



元の姿？



ああ…
そうゆうことか

そうゆう…
…ことなのわ



お嬢様 誤解の無いように
申し上げます

無意識のうちに
暴れているようです
私とのことは記憶に
ないと思われます

暴走直前に聞きましたところ
お嬢様以外には興味が無い
と、断られてしまいました

ふうん…そう

お嬢様の力に当てられて
いるようです



…じつは…
どうなるのかしら？

ある程度の量を吐き出せば
元に戻るようですが…

お嬢様のそばにいる限り
完全に妖魔と化すには
そう時間はかからないでしょう

お食べになられるなら
早いほうがよろしいかと…

食料なのでしょうか？

そうだな…

そろそろお別れね…
最後にもう一度
楽しむとしよう

我慢できたご褒美よ
目一杯好きにしていいわよ



あなたも…
お腹にピクンピクンって
してるのが当たってるわよ

レミイの
すっごくぐちゃぐちゃだよ

今日は私が上で
気持ち良くしてあげるわ

ご褒美なもの
じっとしていなさい

最初くらい
いいじゃない

ずっと時間はあるんだから

レミイ
上手だよっ

ほんと?
気持ちいいの?

すぐに出ちやいそうだ



ちょっと
なにこてるのっ!!?

気持ち良くしてくれる
レミイへのお礼だよ

動きづらい…から
やめてちょうだ…い…っ

おっレミイのお〇んこ
びくびくした

私が…気持ち良く
してあげたいのっ

動かずに密着して
ピクピクしてるお〇んこ
感じてるだけでも
気持ちいいよ







レミイ
前のほうずっと
握りしっぱなしだよ

お尻の穴大好きなんだねッ

お尻の穴もお〇んちん
離したくないって!

そっそんなっ
はしたな……っ



素直じゃない娘は
もっと気持ち良く
しちゃうからねっ

ひゃうっ

好きッ
お尻気持ちいいっ
だから……

牙班めちやダメえ……っ



止まらないよっ
レミイの中気持ち良すぎて

俺いっちゃってるのに
腰が動いちゃうよっ

びるびるしながら
うぐのじ……っ

私と混ぜって
中のどろどろが
掻きだされちゃってる



もっもったいなわ……っ
かきだしちゃダメえ!

いきながらっ
掻きだしちゃってる

安心してっまたすぐ
注ぐからっ!

また出すよっ



ほんと…
全然取まらないのね

レミイはもう…？

好きなだけ良いって
言ったでしょ

もっと気持ち良くなりました
二人で もっと
ずっと…



レミイはもう…？



泣くほど惜しいんでしょう？

うるさいわねっ！

ただか食料一匹のことで
この私が涙を流すわけじゃない

強がっちゃって…

あいつは覚えていて
くれるんだろうか

この借りはいつか返すわ

いや、忘れてくれたほうが
幸せだろう…

いいわよ、別に
迷い人を現世に帰すのも
私の仕事よ



私が忘れなければ
ずっと一緒に…

ありがとう

レミリア・スカーレットの
名にかけて
恩には報いるわ

永遠に生きてられるんだから



そんなにお礼がしたいなら
お賽銭でも入れておきなさい
今月もほとんどないのよ…

あと、
私は泣いてなんかいないからなッ

はいはい
わかったわよ

絶対だからなッ！

食料ごときのことで
泣いたなんていい振らされたら
食意地がはってるとって
笑いものにされてしまうわっ



ピョーン

おわり

あとがき

はじめまして、ちんちくりんと申します。
この度は「幻想少女」お買い上げありがとうございます。
東方ジャンルでは友人と一般向メインで活動してるんですが、エロいのも作ってみたいなー
と思ってやっちゃいました。
所々強引な部分があると思いますが、ストーリーよりもエロ優先にしちゃいました。
エロカットを一つでも多くしようとしてストーリー部分を削る日々...
最終的にはまったく別の話になってました。はい。
それでは、また次の機会に。

奥付

誌名： 幻想少女 ゲンソウショウジョ

著者： ちんちくりん 発行： 珍竹林 <ccc@chinchickrin.sakura.ne.jp> 発行日： 2010.4.14

印刷： 有限会社ねこのしっぽ

※この本は成年向けです。18歳未満の方の閲覧及び購入を禁止します。

※この本は「上海アリス幻楽団」の「東方Project」の二次創作物です。上海アリス幻楽団及びZUN氏との直接の関係はありません。

